

前期を振り返って

2025年2月期の連結業績は、売上高606億円、営業利益13億円、当期純利益11億円となり、期初予想を上回る結果となりました。3か年にわたった「Revitalize Plan（黒字体質復活計画）」を着実に実行してきた成果が表れたと考えています。

この3年間を振り返ってみて、最も大きく変化したのは社員のマインドだと感じています。黒字体質復活に向けた施策の中には、約50年ぶりとなった希望退職の募集をはじめ、身を切られるような痛みを伴うものもあり、社員の皆には負担を強いることになりました。その苦しい中であっても、社員一人ひとりが当社の存在意義とは何かという問いに一から向き合い、決意を持って、これまでの「当たり前」を疑うところから歩を進めたことが復活につながりました。

代表取締役 社長執行役員

滝 一夫



問われる企業としての姿勢

私たちの存在意義は、世の中に求められる商品をどれだけ生み出せるかに尽きます。その核となる「企画」の再構築は、タキヒヨーの生き残りを賭けた取り組みだと言っても過言ではありません。自分たちがこれまでやってきたことを一度否定し、ゼロから始めることの苦しさ負けずに前向きに挑んでくれた仲間たちには心から感謝しています。

ひとまず苦境を乗り越えたものの、私たちが将来にわたり持続的に成長していくには歩みを止めてはいけません。今後は、ますます企業としての「姿勢」が問われる時代になるでしょう。単に質のいいサービスや物を提供するだけの時代は終わりを告げ、私たちが存在することによって世の中にどのようなポジティブインパクトを与えられるかが鍵になってくると考えています。社会に必要な存在であり続けるために、私たちだからこそできる価値創造が何なのか、道筋をつけていくことが私の重大な責務であると考えています。

持続的な成長のために 挑戦し続ける

「Revitalize Plan」で掲げた目標を達成したとはいえ、私たちが取り組むべき課題は数多く存在し、まだまだ改革の道半ばです。2025年1月10日には、「Revitalize Plan」を引き継ぐ成長のための新たな道標として、中期経営計画「Create Future with Passion」を発表しました。

これまでの歴史で培ってきた強みを基盤として、タキヒヨーならではの“ものづくり”の知見や技術を掛け合わせて化学反応を起こし、シナジーを生むことによって、唯一無二の存在になっていくことが、タキヒヨーの未来を形作っていくと考えています。

長く苦しいトンネルにいる間も諦めず、タキヒヨーの復活を信じて応援してくださった株主の皆さまには心より感謝申し上げます。

これからも時代の変化の波に飲み込まれることなく、常に新しいことに挑戦する私たちにご期待いただければ幸いです。

タキヒヨーならではの“ものづくり”の知見や技術を掛け合わせて、唯一無二の存在になる